

〔赤嶺雅和議員 登壇〕

○9番 赤嶺雅和君 通告書に順次質問してまいります。その前に、城間俊安町長、5期20年にわたり、本町の船長となって南風原丸を、南風原町の行政を担っていただき大変ご苦労さまでした。では、質問にまいります。

まず第1に、待機児童問題ですが、南風原町の待機児童はどのように推移しているか伺います。（1）認可保育園を増園したが、待機児童数はどのように推移しているか。

（2）今後の待機児童解消対策を問う。

大きい2番、特定健診受診率と医療費の削減を問う。（1）特定健診の受診率はどのような対策をとれば向上につながるか。（2）医療費の削減は進んでいるか。以上、お答えください。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の待機児童数はどのように推移しているか。

（1）についてお答えします。平成25年からこれまで593人の定員増を図っておりますが、待機児童の推移は平成25年度が23人、平成26年度が49人、平成27年度が127人、平成28年度が188人、平成29年度が150人となっております。（2）についてお答えします。今後の待機児童解消に向けては、3月に見直した南風原町子ども子育て支援事業計画に沿って、平成30年度から2カ年をかけて定員90名の保育園を3園設置してまいります。

質問事項2点目の特定健診受診率と医療費の削減を問う。（1）についてお答えいたします。未受診者への訪問、電話等による受診勧奨に取り組んでおりますが、個々人における健康づくりへの意識を高めていくことも必要だと考えます。（2）についてお答えします。被保険者の減少により国保の医療費総額は減少傾向となっております。以上であります。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 では、再質問に移ります。先ほど待機児童は平成25年が23人、平成26年度が49人、平成27年度が127人、平成28年度が188人、平成29年度が150人となっているという答弁でしたが、これを見てみますと、平成25年から29年度まで約30人から50人ほどの待機児童がふえているようです。本町は年々認可保育園の増設で対応してきましたが、それでもまだ待機児童には追いつかない状況です。理由としましては、南風原町はこども医療費の無償化と、それと津嘉山地区の区画整理事業等がありまして、アパート数がふえまして、子を持つ親がふえております。そういう観点からも待機児童は年々ふえているのではないかと思います。それで再度質問を行います。平成30年も90名の増員を狙って、保育園を3園増設しますということですが、今までの傾向から3園増園してもなかなか待機児童解消にはつながっておりません。年々30名から50名の待機児童がふえておりますが、その辺の対策を今までどおり継続しているのか伺います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。この待機児童解消に向けては、南風原町子ども子育て支援事業計画を見直ししました。本町の子供の数の伸びが相当あるものですから、これまでであった計画では間に合わないということで、ことし2月に子ども子育て支援事業計画を見直ししました。そこで量の見込みを推計で出しまして、この90名定員の3園の整備となっております。この計画を実行していくことで待機児童の解消を図ってまいりたいと思います。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。平成30年から2カ年かけて定員90名の保育園を3園増設していくという方針ですが、定員90名の3園ということは、合計すると270名と捉えていいですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 そのとおりでございます。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 それ以外に、保育園の増設以外に何か変わった対策はないですか、伺います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 新たな保育園の施設整備については、現計画では3園ですが、そのほかの待機児童解消に向けての取り組みとしては、今庁舎内に認定こども園の調査研究のプロジェクトチームというのを前回立ち上げて、一旦報告は終わったんですが、子供の数が、先ほど申し上げましたように相当数あるものですから、認定こども園についても

3月26日（第7号）一般質問

再度、調査研究をする必要があるということで、今、認定こども園の調査研究のプロジェクトチームを立ち上げて、調査を進めているところでございます。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。認定こども園の件ですが、認定こども園を新設される場合は町民に希望を募って、公募して、希望者がおりましたらそれで認定こども園を設置するという方向でいいんですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 新たに認定こども園を開設する場合、まず町が公募してやる方法もございますし、また既設の、私立の幼稚園等からの希望が出てくる可能性もございます。そういった状況も踏まえて、認定こども園の認定については状況を見ながら取り組んでまいりたいと思います。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。公募と私立保育園からの希望によって、また認定こども園がするような方法もあるということでした。それ以外に、例えば家庭内小規模保育とか、そういうものは考えておりませんか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 現時点では、家庭内保育、小規模保育の増設は、現計画ではございません。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 家庭内小規模保育は考えておりませんという答弁でしたけれども、今後は少子化につながるような傾向があります。本町は、今のところはその心配もいらないようですが、今後は少子化も何年か後には検討しなくちゃいけないような状況もあるかと思いますが、それに対する計画はありますか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 現時点では、少子化に向けての計画はございません。まずは待機児童の解消が喫緊の課題だということで取り組んでおります。ただ、10年先か20年先か、減ってくる傾向が出てきた場合とか、子供の数が少なくなってきた場合、定員割れ等が出てきた場合とか、そういったことも想定しながら認可保育園を運営されている法人の中では、将来は高齢者施設との併設とか、そういったことも視野に入れていかないといけないとか、そういう将来的な展望等を考えている法人もございますし、また実際、他市町村の中では高齢者施設と併設して保育園を開設しているところもございますし、将来的には状況、町の子供の数等を見ながら、そういう部分での検討が出てくるものだと思います。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。今後は、高齢者施設も検討していく方向にあるということでしたけれども、高齢化社会が目の前に来ています。そういうことも検討されたほうがいいと思います。ありがとうございます。以上で1番の待機児童は終わります。

2番の特定健診と医療費の削減を問うことに対して。未受診者への訪問、電話等による受診勧奨に取り組んでおりますが、個々における健康づくりへの意識を高めていくことも必要だと考えますとあります。当然、個人に対して電話で勧奨するのも大事です。それとパンフレット、チラシ等を利用して、町民に対して意識高揚を図ることも大事です。それで住民が健康面に対して非常に関心を持っていれば、自然と受診率は上がると思います。保健師の皆さん、あるいは栄養士の皆さんが特定健診、人間ドックの結果に対しての町民、家庭訪問されて、指導されていることに対しては大変感謝申し上げます。

（2）の医療費の削減は進んでいるかということに対して、被保険者の減少により、国保の医療費は減少傾向にありますとありますが、今年度から国民健康保険は県単一化になります。それで保険者は、県に移りますけれども、今までの本町の赤字部分の解消はどのようにされますか。これは赤字解消については一般質問には載っていないんですが、もしよろしければ答弁いただきたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 保険者が県に移るということではなくて、県も保険者になるということでございます。市町村はそのままこれまでどおり保険者でございます。これまでの累積の赤字については、平成29年度分まではしっかりそれぞれの市町村が解消していくということでございます。これは今定例会での、3月の最終補正を上程いたしました、その時点で一般財源から10億円の補?ということで議決いただきました。そういう形で中

3月26日（第7号）一般質問

期財政計画にも示されたとおり、一般財源から補?して、これまでの赤字の解消に努めていくということとなります。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。一般会計から10億円の補?をして赤字分を解消していくという答弁でしたけれども、南風原町は130億円の赤字を抱えています。これは10億円を1年間で返済しますと、13年かかります。この13年の間に何が起こるかわかりませんが、この計画で赤字の解消に向けて頑張っていくという方針でした。ありがとうございます。それで保険者が、人数が減っているわけですから、医療費は減少に向かっている答弁でしたけれども、年々高齢化が進んで医療費はどんどん高騰しています。医療費の削減につながるかどうか、もう1回答弁をお願いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 国保における総医療費については、国保の被保険者数の減少により減ってはきておりますが、1人当たりの医療費については平成27年から28年にかけては横ばい、それまではずっと上昇してきました。これは南風原だけにとどまらず、これは全国的な傾向です。国民医療費は伸びてきた傾向がございます。そういう中で、国も挙げて生活習慣病の対策に取り組んでいるわけございまして、本町もデータヘルス計画を策定し、生活習慣病の発症予防、重症化予防に向けて保健師、栄養士、しっかり取り組んでおります。そういった中で実績としても、例えば糖尿病も重症化しないような取り組み、そういった取り組みを数年かけてやっているわけございまして、その中でも実績として、平成26年度の健診を受けた方の中から腎機能の重症化に、このままでは重症化してしまうという住民の方、19名の方を保健指導していったら、そのうちの7名が改善して5名は維持できた。63%ぐらいが人工透析に移らずに済んでいる現状がございます。1人の方が人工透析になると600万円前後の医療費がかかりますから、これが12名がどうにか継続、改善ということで、人工透析につながっていないという実績がございますので、ここは地道にこの取り組みを今後もしっかり取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。糖尿病による透析の治療は大変医療費が高いということでしたけれども、南風原町には人工透析をしている病院が何件かあります。その影響かどうかわかりませんが、この人工透析をしている患者が本町は多いんじゃないかと思えます。その点はどう思われますか。

〔「休憩願います」の声あり〕

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前11時26分）

再開（午前11時27分）

○議長 宮城清政君 再開します。

民生部長。

○民生部長 知念 功君 保険者としてのデータ上の部分ですけれども、国保の同規模市町村と比較すると若干その部分が多いまちという傾向はあります。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。南風原町は、やっぱり透析患者が若干多いかなという感じですね。その影響でかもしれませんが、医療費が高くついているような感じですね。それと高度医療制度、先進医療がどんどん高度化して、医療費もどんどん上がっていきます。その辺の対策はされていますでしょうか、お願いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 先ほどの答弁で少し多いような傾向ということではあります。が、この透析によって南風原町の医療費が高いんだということでは決してございません。この要因は決してこれだけではございません。本町のように医療機関が集中している都市部においては、ほとんどが医療費は高い状況です。これは当然、受診機会もふえるという部分、これは確かに1人当たりの医療費の高騰につながる部分ではありますが、逆にそういった都市部に住んでいる方々は安心していつでも必要なときには医療が受けられる体制があるんだということにもつながっているものだと思います。また、ご質問の超高度医療とか高度医療の受診による。この部分については、町だけで対策できる部分ではございません。これについては国のほうでしっかりと、当然必要な部分は必要でこれは受けるわけですが、その辺の対策等については国のほうで対策をとっていくわけございまして、例えば超高額な薬、オプジーボとかそういったものが出たときに、その単年度はこの影響で医療費が国全体で上がる傾向がございますが、その調剤費の見直しとか薬科の見直し、あるいは

3月26日（第7号）一般質問

は診療方針の見直し等も2年に1回とか、そういった部分で制度がありますので、そういった中での見直しによって高額な、超高度医療に対する対策がまた国も挙げてとられていくものだと思います。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。医療費の、特に高額医療については、国の政策にも大分影響してきますので、その辺は本町が努力してもなかなか改善にはつながらないと思いますが、その反面、生活習慣病を減らす方向で頑張っていたいただければ、生活を改善する、例えば減塩にする、体重を減らす、あるいは運動をするということを率先すれば生活習慣病も減っていくものじゃないかと思います。本町は、そういう生活習慣病の減少に対する対策は何かありますか。

○議長 宮城清政君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん 答えします。生活習慣病の対策として、まず発症予防と重症化予防に取り組んでいるところですが、まずは町民一人一人が健診を受診して、自分の身体状況を把握し、それについてまた保健師、栄養士から体の状況について丁寧に説明をして、個人個人に合った対策を指導しています。それについては、また個人個人の生活様式がいろいろありますので、そこでどんな運動をする必要があるか、またどんな食生活をするかというのは個人個人で指導に基づいて、実施しているということです。以上です。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。個人個人向けの指導を検討して進めていくという方針でしたけれども、長野県ですか、3年ぐらい前に減塩活動を進めて、寿命が大分延びたということを聞いたことがあります。その点、本町ではどうですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 確かに長野県はそういう活動がされております。本町では、一括交付金を活用して食の応援事業ということで油ものが、とにかく南風原町民を含めて沖縄県民の食事に油が多いから油の適正量はどれだけですと示して、食の面からの部分では、あと野菜を一日何グラムとりましょうとか、そういう取り組みをやってきております。また、その他としましては、生活習慣病対策、個人の健康づくりに向けて、黄金森陸上競技場のトレーニングルームの設備もどんどん充実させてきております。また、そのグラウンドの周りをウォーキングされている方がどんどんふえていらっしゃるんですが、そこも歩きやすいように固い地面から柔らかいソフトな、歩きやすいような形で整備もされております。それから社協のほうにもランニングマシンを設置したりという形で、きっかけとなるような部分、見える形で健康づくりに取り組める場所とかの提供等も少しずつではありますが、できていっていると思います。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 本町では、食の応援ということで、脂分を減らそうということで、メニュー表を配りましたね。あれも非常に参考になると思います。それに加え、減塩も、私は非常に毎回言いますが、減塩を検討していただいて、沖縄、暑い地域は減塩は余りないじゃないかと思いますが、それでも食事の高血圧が多いのはやっぱり塩分じゃないかと思います。そういう意味では減塩の指導を今後していただいて、頑張ってもらいたいと思います。以上で終わります。ありがとうございました。